

## 編集後記 笑顔をつなぐ最年長記録



アヴェニール労務事務所 所長 柿野元博

<http://www.avenir-sr.jp>

E-Mail [avenir4you@gmail.com](mailto:avenir4you@gmail.com)



秋の虫の声が聞こえる時期となりました。東京パラリンピックの自転車競技において、最年長で金メダルを獲得した杉浦佳子さんの笑顔がはじける清々しいインタビューを聞いたのもずいぶん前のことのように感じます。

今月3日、東京パラリンピック大会で2つ目の金メダルを獲得した50歳の杉浦佳子さんは、自身の日本人**最年長金メダル記録を更新**しました。先ごろ話題を集めた、将棋の藤井聡太さんの「史上最年少」3冠もちろん素晴らしいのですが、「最年長」記録ってなんか素敵だと思いませんか？今年ダメだったとしても来年また頑張れる。今年、最年長記録を達成しても、次回またさらに更新できるかもしれない。もちろん周りの人にも目標になるでしょう。そう考えると「最年長」記録って果てしなく夢が続きます。金メダルを手「更新しちゃいましたよー」って、少しはにかんで笑う杉浦さんを見て、元気をもらった人は多いのではないのでしょうか。(^^)

「笑う」ことについて、昨年亡くなられた志村けんさんは、著書の中で次のように語っています。

人間がほかの動物と違っているのは、笑うことだ。つらいことや嫌なことがあっても、思い切り笑えば忘れられる。もっと言えば、笑いがなければ人は生きられない。だから僕は笑いを大事にしたい。

著書「変なおじさん」より



うちの子どもが小学校低学年の頃のこと。豊中市の青少年野外活動協会（豊中野協）が主催するファミリーキャンプに参加したことがあります。場所はたしか能勢（のせ）の方だったと思います。初日の夜のレクリエーションの時、そこでお会いしたお父さん方と「**変なおじさん**」を、みんなの前で踊りました。

それが・・・受けました。とても盛り上がったのです。(^^)/

大人しくて真面目そうなお父さんも一緒に「変なおじさん」を踊っていました。

その家のお子さんも普段と違うお父さんを見て、嬉しそうにゲラゲラ笑っていました。

その旦那さんよりさらに大人しそうに見えた奥さんは、子どもの横で腹を抱えて一番笑っていました。(@\_@:)

その日初めて会った皆さんとの親近感が一気に増して、その後のキャンプも助け合いながら楽しく無事に終ることができました。「志村けん」はやっぱり偉大でした！



職場においても笑顔は大切ですよね。仕事は真剣にやるものとはいえ、人間は感情の動物ですから。

「働き方改革」という名のもとに、ただ闇雲に「残業を減らせ」、「休みを取れ」という進め方をすればそれは窮屈な職場になってしまいます。そもそも、受け身でやらされる仕事と感じていれば効率も悪くなるし、ミスも増えます。「やりがい」、「働きがい」を感じてもらう**仕事の在り方**を、会社全体で考えなければなりません。

1927年から5年間にわたって、生産性向上に関する研究（いわゆる「**ホーソン実験**」）が、ハーバード大学のメイヨー教授らを中心に行われました。そこでの興味深い研究結果があります。

**生産性や人間の仕事の士気である「モラル」を向上させるものは、作業環境や就業条件といったものより、むしろ職場に自然発生的に形成された人間関係（インフォーマル組織）だとされたのです。**

平成の時代に職場から喫煙室が消え、また経費節減を名目に親睦会や社員旅行を取りやめる会社が増えました。さらに今、新型コロナで従業員同士の交流が減っているかと思いますが、生産性の向上につながるインフォーマル組織を育てる機会づくりは大切です。今の時代だからこそ、ぜひ考えていただきたいと思っています。

これからは70歳まで働くことを見据えた社会になっていきます。在籍する従業員さんの**最年長記録**が更新されていく職場も増えることと思います。それはそれで素晴らしいこと。

そこで今回、最後にお伝えしたいのは、かのシェイクスピアの言葉です。

「**どうせ年をとるのなら、陽気な笑いでこの顔にシワをつけたいものだ**」

笑顔で最年長記録を目指す、明るい職場づくりで生産性向上を図りたいですね。

